

こちらは転移性肝癌に対し当院で手術を受け、現在通院していないなど、臨床研究に対する同意書をお渡しできない患者様に対するお知らせです。

転移性肝癌に対する手術を受けられた患者様の保存検体および診療情報を用いた医学系研究に対する協力をお願い。

研究責任者 多摩丘陵病院 外科 丸山正太郎

このたび当院では、上記のご病気で手術を受けられた患者さんの保存検体や診療情報を用いた下記の研究を、医学部倫理委員会の承認ならびに病院長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者様は、その旨を丸山正太郎までご連絡をお願いします。

1. 対象となる方

多摩丘陵病院で転移性肝癌に対し手術を受けられた患者様

2. 研究課題名

承認番号：

研究課題名 転移性肝癌に対するがん免疫系バイオマーカーの探索に関する研究

3. 研究実施機関

多摩丘陵病院

慶應大学医学部

4. 本研究の意義・目的・方法

がんが成長や転移をする際には、患者様の免疫力が低下し、治療が効きにくかったり、がん細胞が育ちやすい環境になっているということがわかってきています。しかし、患者様の免疫状態等を的確に評価することのできる指標（バイオマーカー）が確立されていないため、どうすれば免疫抑制状態を改善し、より効果的な治療が可能になるのか、詳細は未だ解明されていません。そこで、私たちは、当院で転移性肝癌に対し手術を受けた患者さんの組織を調べることで、バイオマーカーとなり得る分子・細胞を検索します。この研究によって、がん患者様の免疫状態とその変化が分子・細胞レベルで明らかになれば、より有効な、がんの診断、がんの治療法の開発につながる可能性があります。本研究実施に際し、既に多摩丘陵病院で、肝切除術を受けられた患者様の検体（病理標本など）、診断

で使用されず保存されている検体を微量用いて、免疫調節分子の解析も行います。また、診療記録（カルテ）の中から、各種の診療情報（年齢・組織型・進行期・予後など）を記録した上で、免疫調節分子の情報とともに分析いたします。

5. 協力をお願いする内容

研究において利用させていただく検体は既に診断治療のために採取されたものの残りを用いるので、患者の皆さんへの身体的負担はありません。また、診療記録（カルテ）の中から、各種の診療情報（年齢・組織型・進行期・予後など）を、免疫調節分子の情報とともに分析いたします。

6. 研究期間

許可日～2021年3月31日

7. プライバシーの保護に関して

本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、臨床写真、カルテ情報です。個人情報（氏名、住所、電話番号など）は一切取り扱いません。本研究の個人情報管理者が厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。

8. お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、【試料・情報の利用や他の研究機関への情報提供】の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

令和元年 8月19日

連絡先

電話：042-797-1511（代表）

多摩丘陵病院 外科 丸山正太郎